令和５年２月 16 日

令和４年度教員養成フラッグシップ大学に対する委員会助言

【全体伝達事項】

○それぞれの大学が、高度な問題意識をもって、独自の工夫によって取り組んでいる様子が確認できたが、大学ごとに取組の進度等に差が生じているようにも感じられる。それぞれ独自の取組の充実を図ることにも期待したいが、まずは先導的・革新的な教員養成プログラム、教職科目の研究・開発など、教員養成フラッグシップ大学の趣旨に則った取組を着実に進めていくことが求められる。

○取組にあたっては、技術革新や社会の変化を注視しつつ、目標とする「未来の姿」を実現するために「いま教員養成大学が学部カリキュラム等において何をすべきなのか」といった観点から取組を推進し、計画期間内に一定の成果をあげることに特に留意することが求められる。

○従来型のコンパートメント化されがちな教員養成プログラムに資質・能力目標等による横軸を通して教員養成カリキュラムと大学・学部組織の転換・構造化を図る“教員養成改革のための「再編的基盤形成」”と、学校教育現場での実践経験による学習とそのリフレクションを促す学びの実質的保証を図る“教員養成のための「学びの実質化」”の二つの観点は、互恵的に進むよう相互に関連づけながら検討されることが重要であるところ、令和４年度の段階では、“教員養成改革のための「再編的基盤形成」”を重視した取組が多いように感じられたところであり、令和５年度には、“教員養成のための「学びの実質化」”との関連に留意しながら取組を進めていくことが期待される。

○先導的・革新的な教員養成プログラム、教職科目の研究・開発に関して、令和５年度のフォローアップにおいては、特に、

・特例科目の開発に当たっての「試行」結果の内容と本格実施に向けた計画の進捗状況（修正等も含む）

・開発する特例科目と他の教職科目全体との関連性とその成果

・開発に向けた方法論（民間との連携、他の機関との連携、大学教員の FD 等）

・学生から見て魅力のあるものになっているか、「学びの実質化」につながっているのかについて、どのような検証を行い、どのような成果（知見等）が得られたのか具体的な内容を確認したい。

○上記の全体伝達事項とあわせて、指定時に出された『「教員養成フラッグシップ大学推進委員会」所見 』、『各大学に対する「委員会審査意見」』、さらには今年度の他大学に対する委員会助言を考慮した上で、取組の改善を図りながら、着実に取り組まれることを期待する。

【個別伝達事項】

東京学芸大学	○５つの特例科目については、いずれも今日的な課題を踏まえた重要なものであり、今後の展開に期待したいが、５科目中４科目は令和７年度（令和５年度入学者の３年次）からの実施となっており、報告書にも記載されているように、可能な科目については現行カリキュラムにおいて試行開設を行い、学生が実際にどのように履修し、どのような学びが得られたかを明らかにできるよう早急に取り組んでいただきたい。 ○特例科目と教育創生科目との関係、特に、特例科目は教育創生科目の「中核的かつ総括的科目」と位置付けられていることの意味・内容を明らかにすることが求められる（例えば、「社会に開かれた探究と今後の学びのデザイン」は３年次からの科目であるが、その意味・内容と、教育創生科目の選択科目で履修する科目との意味・内容上のつながりが理解しづらい。）。 ○学生の主体性を生かした「自律型カリキュラム・マネジメント・プログラム」を展開しようとしている点は評価できるが、学生の自己分析や自己決定は（単に自分で決定したというだけの効果を超えて）本人が真に学ぶべきことの選択につながるのか、学ぶべき項目のしらみつぶし的履修に終わり、学びの実質化に繋がらないのではないか、今後、現職教員の学びに関しては研修履歴を活用した管理職等との対話が重視されていることを踏まえると、学生が履修プログラムを選択するに際しても、完全な自己決定ではなく、そこに大学教員や他の学生との対話があっても良いのではないか、といったことが懸念される。 ○ネットワークは量的・体制的に十分構築されつつある。今後は、教員養成の持続的改善に向けた、ネットワークを活用した実践とそれによるネットワークの質の向上・成長（現場そのものの成長を含む）を期待したい。 ○先端教育人材育成推進機構の下に設置されたリエゾンチームの役割は重要であり、それぞれ個別の活動とならないよう、学内のガバナンスを発揮し、そこでの具体的な意見交換や提案内容等について、教員養成フラッグシップ大学の取組事項に反映させていくことが求められる。

福井大学	○現職教育の計画に比べ、教員養成段階についての具体的な計画と取り組みへの言及が少なく、先導的・革新的教員養成プログラムの研究開発に向けた取組の進捗がかなり懸念される。新たに開発する７科目によって、ねらいとする「学習観を転換する教育課程を創造する」ことがどのように実現されるのか、また、新設科目と既存の科目とをどのように有機的に結び付けていくのか、具体的な検証方法や実施体制と学びの実質化への方法についての説明が求められる。 ○現職教員を対象とした先導的な取組を踏まえた「先導的・革新的な学部教育のプログラム開発」や、発展的に他大学に普及拡大し得るものとしての「総合大学における先導的な教員養成に向けた取組」、といった部分に焦点を当てて取組や年度ごとの進行管理を一層強化していくことが求められる。 ○現職教育との連携による教員養成の新たな展開、“教員養成のための「学びの実質化」“に向けた取組が期待される。取組の充実とあわせて、その成果の評価を明確化することや、その意義が学内外の関係者や学生に伝わりやすくするための工夫を行うことが必要ではないか。 ○教員養成大学フラッグシップ大学は、特定の学部・研究科ではなく、大学として指定しているものであり、学長のリーダ―シップのもとで大学全体の教員養成といった観点から、総合大学の教育学部のモデルとなる取組についての新たな提案を期待したい。国の制度改善に向けた貢献という観点については、自大学の課題解決にとどまらず、小規模大学や総合大学としての教員養成のあるべき姿を構築し、それらの検証結果から制度改善を提案していくという視点が重要ではないか。 ○「附属学校を教員研修学校にする」という取組は、他大学のモデルとなることが期待できる。附属学校の教員養成への関わり方についての新たなモデルの提示を含め、附属学校がハブとしての役割を果たし、大学・教育委員会・学校が一体となって教員の学びの活性化を図るような取組とそのモデル化の提案を期待したい。

大阪教育大学	○開発しようとしている科目は、その趣旨・目的・内容とも具体的であり、着実な進捗が伺える。今後、新たなプログラムを支える大学教員の FD システムの開発、取組の成果を図る「学習成果指標」や「自己評価尺度」の開発や、その検証を踏まえた学修内容・方法・指導体制を含めたシステムづくりなど、学生の学びにつなげていく観点から取組の充実を図っていくことが求められる。 ○開発する科目の設定やティーチャーエデュケーションプラットフォームの構築等、他の大学による自発的・自律的な展開も期待できるような取組を多く含んでいるが、それだけに、その質をどう保証していくかといった観点からの検討・検証をしっかりと進めていくことが求められる。 ○科目案や単位数など具体的に進んでいるように感じられるが、一方で、従来の枠組みの手直しで進んでいるのではないか、よくあるキーワードが並べられているのでは ないか、といった印象も感じられる。教員養成フラッグシップ大学として、内容と方法の革新も含めた先導的・革新的な内容が示されることが期待される。 ○「ダイバーシティ大阪」を踏まえた課題設定は、「令和の日本型学校教育」の具現化に直結するものであり、大阪府・市、近隣企業・大学にとどまらず、全国的な連携をさらに強化していくことが求められる。 ○教員養成フラッグシップ大学としての取組を支える大学経営組織体制や、教員体制づくりについても詳細な説明を求めたい。

兵庫教育大学	○教員養成プログラムや科目群は、中教審答申や教職基盤などに基づいて、丁寧に作られており、実際の科目も興味深いものとなっている。また、教職基盤の縦軸や横軸などの工夫も興味深い。初年度の成果としては満たしているように感じられ、さらなる発展が期待できる。今後、「学び続ける力」（自ら学ぶカリキュラムを作るといった、能動的で継続的な枠組みを自ら作るような学び続ける力）の育成のためにさらなる配慮や工夫があるとより良いのではないか。 ○スタンダードと具体的な学びのイメージ（「教職基盤が働くイメージ」）に基づいて教職科目を設定するという構造化が適切になされている。教職員構造の改革も含めた精力的な取組が進められており、構造的な基盤形成がなされていると認められる。特に「観」を核に一貫した構造化を図っている点が評価できる。 ○令和５年度は、新しく策定する「教員養成スタンダード」を基に開発する特例科目、教職アドバンスト科目によって、学生がどのような資質・能力を獲得できるのか、その検証方法とともに、具体的な教育指導の在り方についてどのような知見が得られたか、といった点を具体的なエビデンスに基づいて確認したい。 ○科目開発のプロセスが単に段階的開発に見え、「スモールケースでも使って結果を見て次の開発につなげる」という意味のアジャイルとはなっていないように感じられる点が懸念される。実際の各科目の授業実践での成果の報告を求めたい。 ○「AI・データサイエンス」、「教育データサイエンス」、「５年一貫による学部・教職大学院の一体的な教員養成カリキュラム」の開発等、早期に具体化し、普及展開されることを期待したい。